

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572505709		
法人名	社会福祉法人 中央会		
事業所名	安心サポート矢島		
所在地	秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下481-1		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、季節を感じながら、生活していただけるよう心がけております。献立にも、地元の物や旬の物、自分達で育てた野菜を取り入れております。昔ながらの行事や風習を大切に、慣れ親しんできた気持ちを大事にしております。その方が歩んでこられた生活を大切に、また、その方を取り巻く家族の気持ちを大切に、自然に笑顔があふれる毎日が送れるよう、心がけております。共に楽しみながら、共に笑顔を忘れずに毎日を過ごしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者始め全職員が女性、またここ7年間職員の異動が無く、馴れ合いによる言動を注意し合いながら、個別支援に取り組まれています。更に、ここ一年間入退所者の変動もなく、調査当日も102歳の方がにこやかな表情で、他の両者達と一緒にホールで過ごされていました。進行傾向にある利用者の重度化に伴い、今年度は特に身体介護について、改めて勉強する機会を計画し、法人内外の場で実施されています。「何か仕事をしたい」と話す利用者が多く、洗濯物のたため、ゴミ袋に名前書き、食材の下拵えなど出来ることを継続して行えるように支援されています。由利高原鉄道の例年の「案山子列車」に今年も出品し、地域住民との交流を楽しまれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく 生き生きと いつまでも お元気で」の気持ちを共有し、お一人お一人が、笑顔のある毎日を送っていただけることを常に考え、支援しています。	大きい字でホールに掲示された理念を共有し、前年度の行事などを振りかえりながら、新年度の目標を皆で決め、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事に、可能な限り参加しています。チャレンジデイには、毎年参加し、地域の方々や保育園児との交流を行っています。	高校の認知症のサポーター養成研修には、講師の一人として出席し、事業所の事例などを紹介し、地域の一員としての役割を担っています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ケア会議や運営推進会議を利用し、事業所での取り組みを報告しています。また、地域の方から相談を受けた際は、次につなげるような支援を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員も交代で出席し、事業所での活動内容やGH連絡協議会を通じての地域の状況を報告しています。また、委員の方々からの意見や質問、情報提供を活用し、GH会議などでも検討しています。	事業所の取り組み状況を説明し、活発な意見交換が行われています。委員の中には消防署職員のOBもおられ、防災対策の専門的な知識を得るなどサービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、事業所の実情を報告するとともに、地域の情報や取り組みを知る機会を得る事ができています。	グループホーム協議会では、行政関係・地域の情報などを頂くなど、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	OJT等を活用し、どのような場面が拘束になるのか等を、再認識するようにしています。また、職員同士が声をかけあい、安心して生活できるように心がけています。	拘束とはどんなことなのか、法人内外の研修を繰り返しながら、拘束のないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、OJTなどの研修を行い、常に職員間で疑問に思ったことは、口に出し、確認し合える関係性を築いています。また、家族へも、どのような事でも報告するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談を受けた場合は、必ず、関係各所に連絡し、連携を図るように心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、見学していただくよう働きかけ、わかりやすく説明するようにしています。入所後は、制度による改正や介護度の変更、それに伴う変更、その都度説明を行い、疑問点を伺うなど、誤解のないよう注意しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、ご家族やご本人からも意見を伺えるようにしています。面会時には、要望・意見を伺い、問題があれば、会議で検討しています。ご家族やご本人との会話を大事にしています。	面会時の世間話の中で家族の要望など気付く事もあるので、世間話を大事にしています。必要なことと判断した場合は記録に残し、会議などで検討され運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員間の和を大切にし、意見の出しやすい環境に心がけています。毎月のGH会議では、カンファレンスや業務の見直しを行っています。	職員同志はどんなことでも話しやすい環境にあり、ハード面での事例もあります。また、ここ数年職員の異動もありません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議にて、知識を深めつつ、向上心を持って、働けるよう努めています。また、リーダー会議などでも、情報交換を行い、具体的な実績報告もしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTや由利本荘にかほ地区GH連絡協議会の研修等、外部研修等にも参加しています。参加後は、伝達講習を行い、一人一人の向上に繋げています。また、併設の特養でも研修の情報を得る事ができるようになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会を通じて、研修会や交流会に参加し、同業者の意見を参考にさせていただき、悩みの解消や業務の改善に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時より、ご本人から、困り事や要望を伺い、ケアプランにも反映しています。その後も、定期的に伺い、信頼関係を築くようにしています。声をかけやすい、環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の説明より、家族の困っている事や意見、要望を伺い、入所後も面会や支払い時に、声かけを行い、信頼関係を築けるようにしています。また、どんな些細なことでも、気軽に相談してほしい事を伝えています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、何気なく、昔の事を伺ったり、その時あった事を笑い合ったり、山菜の下処理等も一緒に行い、教えていただくこともあります。また、できる事はお願いしています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告のほか、ご本人に何かあった時は、ご家族へ連絡し、一緒に対応しています。その時々で、ご家族の希望を伺った上で、連絡を蜜に取り合っています。また、絵手紙や年賀状のやり取りを行っている方もおります。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋や美容院など、昔からの行きつけの場所との関係を継続し、そこでの、会話や人間関係なども楽しんでいただいています。また、面会時、写真をとり、お互いに関係が途切れないようにしています。	お盆や正月には家族の協力で外出し、近所の馴染みの方との交流や法要にも出かけられています。またセンター方式の支援マップも利用し、継続した支援が行われています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者との会話中に、他の方にも声かけを行い、会話にさりげなく誘ったり、一緒に作業をする事で、お互いが関わりあえるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、住替え先の申し送りや相談も受け付けており、ご本人やご家族が心配なく生活できるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活の様子を観察し、どのように暮らしたいのか、または、希望を伺っています。把握が難しい時は、ご家族の思いを伺ったり、本人の目線に立って考えたりしています。それを、会議で話あうようにしています。	利用者の重度化に伴い、日常の関わりを出るだけ多くし、思いや意向を把握するようにしています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との何気ない会話から、これまでの生活等を少しずつ知ることができています。さりげない会話も大事にしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日により、時により、できる事だったり、または、レクや手伝いにより、できる事や得意な事を見つけられるように努めています。また、可能な限り、日常のお手伝いも続けていただいています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が安心して生活を送ることができるよう、ご本人やご家族より要望や意見を頂き、また、日常会話から気付くようにし、GH会議にて話し合いながら、介護計画の作成に反映しています。また、毎月、担当者がモニタリングを行っています。	毎月担当職員からの意見も参考にしながら、カンファレンスで検討し、現状に即した介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一緒に生活を共にしている職員が、日々の様子や気づきを記入し、職員間で共有できるようつとめており、日々の実践や介護計画に生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人が安心・安全に生活できるよう、必要に応じて、支援していただけるよう努めています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族より、情報を頂き、以前からのかかりつけ医を受診しています。緊急時にも、対応していただける体制を築いています。また、週1回 協力医院の回診もあり、色々な面で相談し、意見を頂く事ができています。	定期の外来受診時にはかかりつけ医の配慮で、待ち時間が少ないようにしていただき、受診情報はケース記録などで共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師や協力医に相談、報告し、指示をいただきながら、適切な受診ができる体制がとれています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と相談しながら、早期に退院できるように、情報交換、話し合いができています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所の対応能力について説明しています。その都度、家族・職員・主治医と連携を図りながら、支援できる体制作りはできています。	看取り支援は可能であり、早期から家族と話し合い、かかりつけ医や関係者と連携を密にし、チームで支援に取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応が確実にいえるよう、伝達講習・実践訓練を行うようにしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を昼・夜想定で、定期的に行ない、利用者の個々にあった状態で、避難できる方法を一緒に身に付けて、実践できるようにしています。災害時に備えて非常食や物品も準備しています。	併設の特養と合同で日中、火災・地震を想定し、消防署員や防災機器関係者の協力を得て、通報・消火・避難訓練を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	OJT等の研修で再確認を行っています。また、その方にあった対応や声かけを常に検討しています。	一人ひとりの生活歴などを把握しながら、プライドやプライバシーにも配慮した言葉掛けをしています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思い・希望等と、表す事ができるよう、個々にあった声かけや馴染みの関係を築くよう心がけています。可能な限り、自己決定できるよう支援しています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、一人一人のペースを大事にし、その方の状態に合わせ、やりたいことやできる事を、引き出して、満足感につながるようにしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや意向を聞きながら支援し、個性を引き出しながら、行事の際は、化粧を行う等、おしゃれを楽しんでいただいています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や畑でとれた野菜を使用し、季節感のあるメニューになるようにしています。その方々の状況に応じて、代替も準備しています。また、食材の下ごしらえを手伝って頂くなど、食を楽しんでいただいています。	要介助者が多く、早出し・遅出しに分けての食事、一人ひとりに適した調理内容で、職員も同じ食事を同じテーブルで、見守り・声掛けをしながら食べています。また 個別に食べたいものがある時は、受診の帰りに食事されることもあります。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の必要なカロリー・水分がとれるように、バランスを考えており、塩分や水分補給に注意し、栄養不足・脱水にならないように、努めています。必要に応じて、主治医に相談しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、一人一人の状態に応じた、口腔ケアを行う事ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人一人のペースで排泄できるよう、声かけを行っています。また、サインを見逃さないよう、声かけを行っています。	排せつ間隔を把握し、定期的に声掛け誘導し、段階的に改善された事例もあります。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては栄養士と相談し、繊維質の多い食材を取り入れております。毎日、テレビ体操にて、手足の体操を行い、予防に努めております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝、健康状態を確認しながら、入浴しております。一人一人の希望や状態に合わせて入浴しています。入浴拒否の方には、無理に声かけを行わず、時間を変更するなど、状況を見ながら、声かけを行い、入浴しています。	安全・安心・羞恥心などに配慮し、可能な限り本人の意向に添って、週2～3回入浴出来るように支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、日中、活動的に生活できるよう、運動やレクリエーション、お手伝いを行っていただけるようにしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服薬する薬の内容がわかるようにしています。その都度、関わる職員が確認し、間違いのないよう、飲み忘れや誤薬のないよう、心がけています。状態に合わせて、服薬の仕方を工夫しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族より情報をいただき、その方にあつた役割や楽しみごとで、気分転換ややりがいを見出していただけようになっています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を伺いながら、外出計画につなげるようにしています。季節の変わり目には、その時々景色も楽しんでいただけるよう計画しています。また、個別の外出も計画しています。	日常の散歩道は地域のジョギングコースでもあり、地域住民と挨拶を交わすことも多く、交流の場ともなっています。季節々のドライブや個別外出など、出来るだけ戸外に出る機会をつくっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族と相談し、その方の状態や希望に沿って、管理しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけて頂き、手紙や年賀ハガキ等、一人一人の状況に応じて自筆で書いていただいたりし、家族との関係をつなげるよう支援しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に使用して頂けるよう、食堂・玄関前にソファを設置し、植木や季節の花を飾り、心から安らげるようにしています。自然の明るさが入り、そこで写真や広報などをご覧になり、ゆっくりできる空間作りをしています。	事業所内随所にソファが置かれ、利用者・家族・職員との語らいの場となっています。また ホールにはテーブルを多くし、その日によって座る場所を変えることも出来ます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関前にソファを置き、自由に利用頂いています。玄関にはベンチを設置しており、外の様子(季節を感じたり、車の通りを見ていたり)をご覧になったり、思い思いに過ごせる空間作りをしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力頂き、使いなれた馴染みのタンス等を持参して頂けるよう働きかけています。自分で作成した愛着のある作品や、見えやすいところにご家族との写真を貼る等し、安心して過ごして頂けるようにしています。	自分の居室が曖昧になっている利用者には、入り口にフルネームの名札を掛け、安心して入室できるように、また 身体の変化に応じてベッドの位置を少し動かし、捕まるところを確保するなど、個別支援が実施されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ間違いのない様、目立つよう表示したり、手すりをつけ、歩行の妨げにならないよう、物の置き場に配慮し、安全に移動できるようにしている。		